

こどもとてつがく

[本の展示会]



哲学する本棚

2024年 1/13 [土] - 3/10 [日]

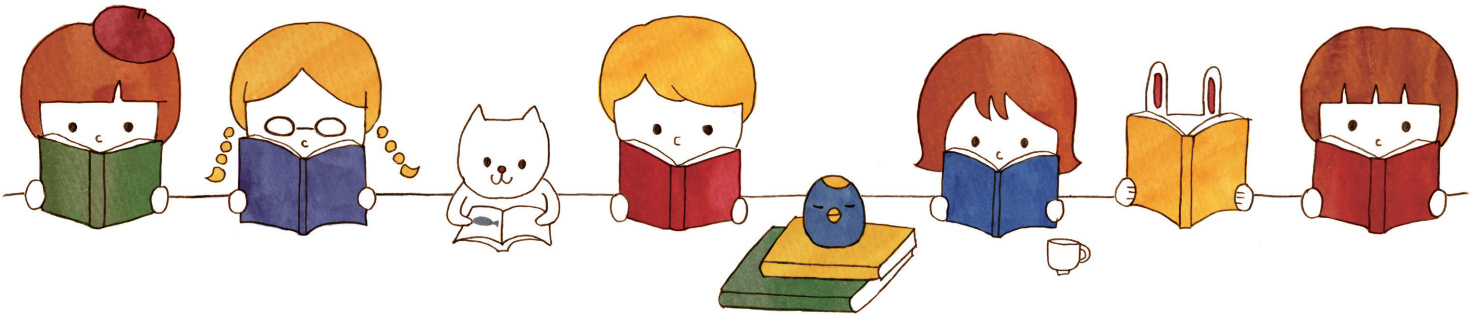
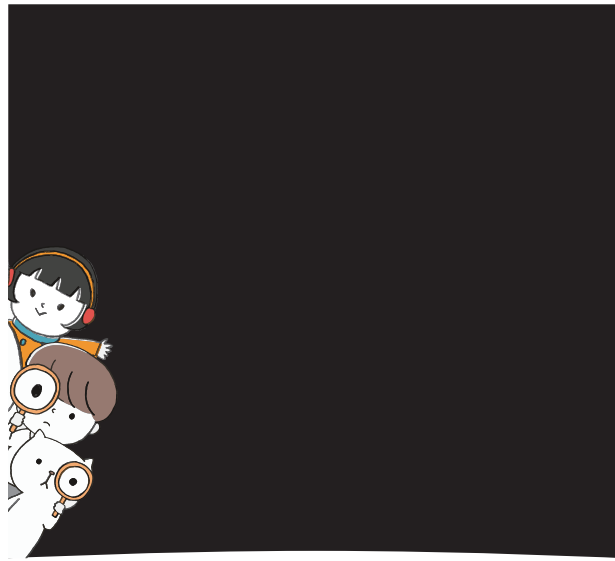
会場：哲学館 B1F ホワイエ <入場無料>

おとなも むかしは こどもだったって、ほんと？

こどもは いつまで こどもなのかな？

こどもと おとなを かんがえるための ほんを あつめました。

ほんを てに とって、よんで、かんがえてみてください。



みんな昔は
子どもだった

どうして生まれて
きたの？

もっと遊びたい！ 哲学する子ども

子どもたちへ
おとなたちへ

幾多郎と子ども

哲学カフェ

定員各 10名
(要申込・先着順)
(参加費無料)

進行：高谷 掌子
(石川県西田幾多郎
記念哲学館研究員)

①哲学館 B1F ホワイエで開催

2月4日(日) 「きょうだいは多いほうがいい？」

13:30-15:30

②あそびの森かほくくで開催 共催：あそびの森かほくく / 申込は哲学館まで

2月25日(日) 「おとなは遊んじゃダメ？」

13:30-15:30

※このイベント以外の時間にかほくく館内で過ごされる場合は別途入館料が必要となります。

○【小学生対象】哲学館 B1F ホワイエで開催

3月10日(日) 「こどもとおとな、どっちがしあわせ？」

③ 13:30-14:30 【小学1~3年生限定】

④ 15:00-16:00 【小学4~6年生限定】

※哲学カフェは、集まった者同士で身近なテーマについて語り、考えるイベントです。
各回とも、参加申込は開催1か月前から哲学館(076-283-6600)で受け付けます。

石川県 西田幾多郎記念哲学館

Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角井1

TEL (076) 283-6600 FAX (076) 283-6320

URL <http://www.nishidatetsugakukan.org/>

E-mail nishida-museum@city.kahoku.lg.jp

■facebook / Instagram でも関連情報を随時更新しています。



開館時間 ■ 9:00 ~ 17:00 (入室は 16:30 まで)

休館日 ■ 月曜日 (祝日の場合は翌平日)、年末年始(12月29日~1月3日)

交通アクセス

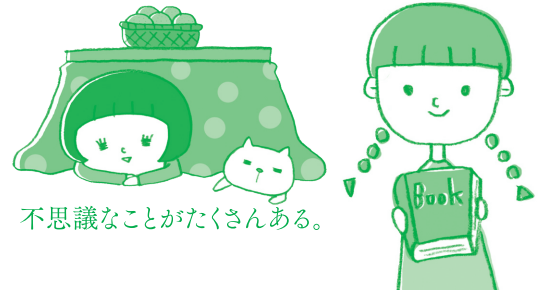
【車利用】北陸自動車道 [金沢東IC]-国道159号線(約20分)
のと里山海道 [白尾IC]-約5分

【JR利用】金沢駅-IRいしかわ鉄道線・七尾線(約25分)-宇野気駅-
徒歩(約20分)-哲学館





子どもと哲学



おとなだって、昔は子どもだった。けれど、子どもと一緒にいると、不思議なことがたくさんある。子どもについて・子どもとともに考える本を50冊選びました。

哲学館ホワイエに期間限定の読書空間が出現します。本を手にとり、読んで、考えてみてください。

展示書籍のご紹介

1 みんな昔は子どもだった

おとなだって、哲学者だって、みんな昔は子どもだった。子どもの頃の話を知ると、相手に親しみがわくかもしれない。

『星の王子さま オリジナル版』

サン＝テグジュペリ／著・内藤濯／訳
岩波書店

「かんじんなことは、目に見えないんだよ」…。〈おとな〉が忘れてしまったことは、なんだろう？ 〈子ども〉だったら、わかるかな？



2 どうして生まれてきたの？

今や、子どもを生むかどうかを選べる時代。子どもは、生まれてくることを選んだのか？ 生まれてくることは、幸せなのか？

『生まれてこないほうが良かったのか？—生命の哲学へ！』

森岡正博／著 筑摩書房

生まれてこなければ良かった、もう二度と生まれたくない、子どもを生まないほうが良い…。出生から逃れたいという思想は、古代ギリシャにも、仏教思想にも、そして近現代の西洋哲学にも登場する。生まれてよかったといえるのか？



3 もっと遊びたい！

子どもは遊ぶのが好き。時に、おとなをクタクタにさせるほど…。どうして遊ぶの？ 遊びって何？ おとなは遊べないの？

『プレイ・マターズ—遊び心の哲学』

ミゲル・シカル／著・松永伸司／訳
フィルムアート社

遊びの哲学、最前線！ スマホをわざと不便にするアプリ、機動隊に包囲されたときの遊び、プレイに8時間もかかるゲーム…。遊び心ってなんだろう？ 遊びを引き出すデザインとは？



4 哲学する子ども

「なんで？」「どうして？」という子どものギモンは、哲学の問いに似ている。子どもと哲学者は、友達になれるかも？

『こども哲学ハンドブック—自由に考え、自由に話す場の作り方』

特定非営利活動法人 こども哲学 おとな哲学
アーダコーダ／著 アルパカ合同会社

こどもの哲学は、かほく市の小学校でも取り入れられている対話の時間。すぐには答えが出ないような問いについて、子どもたちとじっくり対話する。そんな哲学の場をつくるためのアドバイスが詰まった本。



5 子どもたちへ／おとなたちへ

おとなは、子どもに何かを教えたがる。子どもを応援していると、おとなも元気ももらうからかもしれない。

『漫画 君たちはどう生きるか』

吉野源三郎／原作 羽賀翔一／漫画

自分で考えるって、どういうことだろう。正しく生きたいのに、友達を裏切ってしまった…。中学生の僕に、浪人中のおじさんが教えてくれた考え方は。映画で話題の物語を、漫画版で。



6 幾多郎と子ども

幾多郎だって、昔は子どもだった。おとなになって、子どもや孫をかわいがった。子どもから見た幾多郎は、どんな人？

『小学館版学習まんが 西田幾多郎—世界に影響を与えた日本人初の哲学者』

石川県西田幾多郎記念哲学館／監

みやぞえ郁雄／まんが 平良隆久／シナリオ
かほく市の子ども議会からの要望に応えて、幾多郎の生涯が学習まんがになった！ 戦争を繰り返す激動の時代、家族や生活の不幸に何度も見舞われながら、果敢に思索を続けた幾多郎の生涯を、現代の子どもたちに伝える。



展示会場「ホワイエ」の紹介

哲学館のホワイエは、傾いた曲線のコンクリートが大きなガラスの天窗へと広がりながら向かっていく、すり鉢状の円形空間です。円形に切られた空を眺めながら思索することができます。期間中はホワイエの中央にこたつが設置され、周囲に展示された本を自由に手にとり読むことができます。